

団体名		
就実・森の学校	代表者 千葉喬三	記載者 石田省三
所在地(市区町村名のみ)		
岡山市		
活動目的		
竹林コンサートを通して、里山への理解を深めること。また、現在心配されている南海トラフ地震への対策を地域の人と共に考えながら活動すること。		
団体の紹介		
<p>就実学園が所有する山林をフィールドとしてESD(持続可能な開発のための教育)教育プログラムを構築することを目的に設置された団体で、通称「就実・森の学校」と呼称する。対象となるフィールドは操山山系の東部、標高134mの東斜面およそ10ヘクタールの、雑木と竹林の混交林である。団体としての活動は里山の整備と、生徒学生を対象にした森林学習で、一般対象のプログラムを含めると年間およそ30のイベントを実施している。団体は、「未来に生かす里山整備」を目的の一つとし、南海トラフ地震に対する緊急避難地としての整備を進めている。</p>		
助成を受けての活動内容		
<p>27年度は次の事業を重点目標として取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>春の訪れコンサートを実施することを通して里山への理解を深める事業。 平成27年4月26日(日)第4回「春の訪れコンサート」を実施した。主会場は竹林内の常設ステージで、午前午後に分かれて8団体が演技、演奏を行った。また第二会場のグラウンドでは竹細工教室も開かれ多くの子ども達が参加した。昼食として現地竹林の筍を食材として筍ご飯を提供した。当日の参加者は約450名に上った。昼食時間を利用して学校内ハイクも実施したが、豊かな職制に触れ、また24基に上る古墳を見学し、あらためて里山への関心を深めた人が多かったように思われる。閉会後のアンケートからは「岡山の市街地近くにこんな自然豊かで整備されているところがあるなんて知らなかった。次回のイベントにも是非参加したい。」との声が多く寄せられ主催者として次回開催への大きな弾みとなった。次年度は28年4月24日開催予定である。</li> <li>防災拠点・防災倉庫の整備 南海トラフ地震の危険性が叫ばれている。岡山県南の広大な干拓地には標高0m地帯が広がっており、東日本大震災級の地震が発生すると広範囲に液状化が起こり、数時間後にはおよそ3mの津波が押し寄せると推定されている干拓地の北に位置する「就実・森の学校」では、かかる地震に備えて校地の一部を防災拠点(緊急避難地)として整備し、防災倉庫を設置するなどの対策を始めている。27年度はこの地震への対策活動も重点目標とした。JRコンテナを利用した防災倉庫にはある程度の備蓄品をストックしているが、27年度は昨年以上に内容を充実させることが出来た。27年度末現在の備蓄状況は「森の学校」で生産した燃料(竹炭約300kg)、七輪、ヘルメット、スコップ、米、緊急用炊飯機器や水、そして3月現在仮設テント10張り(中古品)の入手も交渉中である。今後は年間1棟を目標に防災倉庫を増設していく予定である。また避難地に至る避難路の整備を進めている。この活動を通して地域の防災に少しでも役立つことが出来ればと考えている。</li> <li>歴史遺産の保護、教育活動 校地内には8世紀後半頃のものと思われる24基の古墳が存在する。「就実・森の学校」ではこの生きた歴史遺産を次世代に伝えるため生徒・学生と共に古墳の整備、保護活動をすすめている。</li> </ol>		
助成を受けての成果		
<p>活動を始めて6年が経過した。この間学園内や地域の方々から里山の大切さを理解してもらおうと様々な試みを行ってきた。現在、学内ではこども園、小学校、中学・高校、大学とそれぞれの学齢に適する学習プログラムが出来つつある。また27年度から本格的な取り組みを開始した南海トラフ地震に対する防災活動も防災倉庫の設置など徐々に成果を上げつつある。</p>		
今後の活動の課題点		
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 里山再生事業に取り組んでいるグループ間での連絡網の必要性を感じる。(情報の共有)</li> <li>* 里山再生に取り組むボランティアの不足</li> </ul>		
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)		
連絡先:岡山市中区西川原1-6-1 就実学園本部「就実・森の学校」事務局 担当:石田省三		
<a href="http://iwanashi.jp/shujitsu-morino-gakkou/">http://iwanashi.jp/shujitsu-morino-gakkou/</a>		



